**世界史Ｂ学習アドバイス**

**１．どのような学力が必要？**

出題される「用語」のレベルは、センター試験と同じか、それよりさらに限定されています。ただし、それは学ぶべき知識量が減ったということではありません。用語そのものを問うのではなく、出来事の「内容」や「因果関係」「背景」「影響」などを問う出題が増加しているのです。したがって、教科書などを利用して理解する学習が必要であり、用語の暗記だけでは対処できないでしょう。

**２．資料を活用した問題や会話文を利用した問題が多い！**

2023年度共通テストは、資料を活用した問題や会話文を利用した問題が非常に多く出題されました。とくに、会話文を利用した問題は、2022年度と比べると2倍に増えました。

**３．資料問題や会話文問題の特徴は？**

共通点は、正しい読み取りが必要であること。2023年度は、解答のヒントが2、3カ所に分かれていて斜め読みでは対処できない問題や、複数の資料を活用しなければならない問題がありました。では、資料や会話の読み取りさえできればよいのか？そうではないのです。読み取った情報を習得した世界史の知識と組み合わせ、総合的に判断して答えを導きだす問題が多く出題されました。そもそも、世界史の基礎的知識がないと、資料や会話文のどこがヒントになるのかわからないです。

**４．さあ、始めよう**

共通テストでは、古代から現代まで幅広く出題されており、第二次世界大戦後の歴史からも出題されます。また、政治史だけでなく、社会・経済史や文化史からの出題も多くあり、そこで差がつく傾向にあります。非常に広い範囲の学習が必要ですので、早めに取り組みましょう。その際、「タテのつながり」「ヨコのつながり」を意識した学習を心がけるとよいでしょう。  
2021～23年度は図版やグラフ・地図等を利用した問題は比較的少なかったのですが、今後、それらを利用した問題が増加する可能性もあるので、教科書本文の文字情報だけではなく、図版やコラムにも目を通しておきましょう。  
文章の読み取りを必要とする問題が大幅に増加した結果、問題の分量は非常に多いです。本試の問題を解くだけではなく、模試の活用などを通じて、問題演習量を積極的に確保し、形式に慣れましょう。

**2024年度共通テスト　問題構成と設問別分析**

**問題構成**

| **大問** | **分野** | **配点** | **マーク数** |
| --- | --- | --- | --- |
| 1 | 様々な地域や時代に見られた体制と制度 | 27 | 9 |
| 2 | 世界史における諸勢力の支配や拡大 | 23 | 8 |
| 3 | 交通の発達とその影響 | 22 | 7 |
| 4 | 世界史上の様々な言語や文字と、人々の文化やアイデンティティ | 28 | 9 |
| 合計 | | 100 | 33 |

**設問別分析**

**第1問**

Aは『史記』と『読通鑑論』の一節を用いた前近代の中国史、Bはイングランド国王エドワード死後の政治的情勢に関する資料を用いた中世ヨーロッパ史、Cは20世紀におけるイギリスの福祉制度に関するサッチャー首相のインタビューを用いた近現代ヨーロッパ史。資料（史料文）が多く一見煩雑な印象を受けるが、封建制、ハロルド王の即位、福祉制度についてそれぞれ肯定する立場と否定する立場といった対比が明瞭であった。問3は永楽帝が帝位につく前は燕王であり、建文帝を打倒する靖難の役を経て皇帝となったという知識を基に、Ｙが「一族に対する分権の弊害」の例と判断する。問4は文章から空欄イの人物が後にローマ教皇から戴冠されたことや、この戴冠が神聖ローマ帝国の起源となったことを読み取り、この人物がオットー1世であると判断する。

**第2問**

Aはアレクサンドロス大王のアジア支配についてのゼミ発表を、Bは19世紀のアメリカ合衆国で発布された法律を、Cは朝鮮戦争における休戦交渉をテーマとして、古代ギリシア史・イラン史、19世紀のアメリカ合衆国史、20世紀後半のヨーロッパ史・アジア史が主に出題された。問4・問5は共通テスト本試験では初めて出題された連動式の問題であり、問4で選んだ解答によって問5の解答が変わるため、それぞれの選択肢との関連を考察する必要がある。問6は資料や文章の内容から、朝鮮戦争におけるスターリンや毛沢東と、空欄イ・ウに入る勢力との関係を読み取って解答する。問7は文章から、空欄エに入る国は1948年のクーデタによって共産党政権が成立した国であることを読み取り、「チェコスロヴァキア」と判断する。

**第3問**

Aはインド亜大陸における交通の歴史を、Bは20世紀のアメリカ合衆国における交通手段の変化を、Cはロシアの歴史と文化を扱った問題。問1は会話文から空欄アに「アショーカ王」が入ることを判断した上で行う正誤判定問題であった。問3はメモ1・メモ2のそれぞれの正誤の判断が必要で、消去法が使えない形式であったため、図1・図2で示されたインドの地図から情報を正確に読み取る必要があった。問6も資料2をしっかり読まないと正解できず、問7も問3と同様の形式で消去法が使えないため会話文から情報を正確に読み取らなければならなかった。

**第4問**

Aはシリア語の果たした役割を、Bはコロンブスの時代におけるスペイン語の影響を、Cは顔真卿の作品をめぐる唐代・宋代の文化人の評価を扱った問題。問1と問3は会話文の読み取りが必要な問題で、問1は会話文から空欄アに「コンスタンティヌス帝」が入ることを判断する必要がある。問6は「コロンブスはスペイン人である」という誤った説をもたらした「思い込み」の理由を文章中から読み取った上で、その背後にある価値観を考えさせる問題である。問7・問8は空欄に入れる用語に関連した問題、問9はメモ1・メモ2のそれぞれの正誤の判断が必要な消去法の使えない問題で、3問ともすべて会話文中からの情報の読み取りが不可欠な問題であった。

**平均点の推移**

| **年度** | **2024年度** | **2023年度** | **2022年度** | **2021年度** | **2020年度** |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 平均点 | 60.28 | 58.43 | 65.83 | 63.49 | 62.97 |

* 2021年度は大学入学共通テスト第1日程の平均点
* 2020年度は大学入試センター試験の平均点